

【目的】子どもが将来の職業や専攻する分野を選択するにあたって、身近な人や家庭環境が深くかかわっている。とくに、女性が少ない理工系分野の場合、両親の職業・専攻が強く影響している。本研究では、子どもの頃の体験や両親とのどのようなかかわりが専攻分野決定のきっかけになったのか、理工系女子学生と、一部比較のため文系女子学生の聞き取り調査を行い、子どもの将来選択と家庭環境との関連を探っていきたい。

【方法】首都圏の大学に在学する理系学部3～4年及び修士課程の女子学生25名と文系学部3～4年生5名の合計30名を対象に聞き取り調査を行った。対象者は1993年に「女性と教育研究会」が実施したアンケート調査の回答者から選出した。質問内容は現在の専攻を選んだ理由、小・中・高校時代のテレビ視聴や読書、及び遊び、家族のことなどで、とくに、子ども時代を中心に聞き取りを行った。調査時期は、1994年10月～12月。

【結果】女性が理系を選択した理由としては、①子どもの頃の親との関わりについて、親の専攻が理系・文系にかかわらず、子どもの質問に親が論理的に対応している家庭、父親との接触の長い女子、②親の夢を実現、③理工系職業の道具が身近にある家庭、④兔、牛などの動物を飼ったり、家の周辺に自然が残る環境、⑤テレビは科学番組を視聴、⑥図鑑や学研の『科学』などの科学系の読書、⑦科学博物館やプラネタリウムの見学などの体験があげられている。以上のような環境であれば、全員が理系に進むというわけではない。同じ姉妹でも姉や妹は文系という場合もある。とはいえ、このような環境は将来を選択するとき、理科系も選択肢に入ってくる、将来の選択幅を広げる環境といえよう。